

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 28 年 11 月実施分]

◎肯定的回答率の全平均

【生徒】 26 年度 68.9% ⇒ 27 年度 70.8% ⇒ 本年度 70.6% **【教員】** 66.4% ⇒ 54.8% ⇒ 60.6%

【保護者】 77.2% ⇒ 76.4% ⇒ 76.9%

◎項目をいくつかのカテゴリーにまとめた場合の傾向 ※データ：本年度（27 年度, 26 年度）

【生徒】

①学校全体についての意識： 55% (59%, 60%)	②学習・授業に関して： 73% (72%, 69%)
③生活指導に関して： 73% (71%, 69%)	④進路指導に関して： 82% (81%, 75%)
⑤教育相談、支援について： 77% (75%, 71%)	⑥人権教育、学習について： 67% (72%, 68%)
⑦学校行事、生徒会活動： 68% (68%, 69%)	⑧施設・設備に関して： 73% (73%, 72%)

※生徒のカテゴリー別の結果について、今年度は①「学校全体についての意識」、⑥「人権教育、学習について」の数値が減少しているが、全体的には大きな変動は見られない。

各項目別にみると、昨年度に比べ、25 項目中 14 項目が上昇しており、特に「授業でわからないことについて、先生に質問しやすい」(68%→71%→75%)、「教え方について工夫をしている先生が多い」(65%→66%→70%) など、カテゴリー②「学習・授業に関して」では全項目が上昇している。

一方低下したのが「学校に行くのが楽しい」(82%→81%→75%)、「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」(74%→77%→72%)、「事件・地震や火災などが起こった場合の行動について知らされている」(81%→83%→78%)。また、60%を下回る回答は「視聴覚機器やコンピュータなどを使う機会がよくある」(56%→51%→51%)、「授業や部活動、行事で地域や他校と交流する機会がある」(54%→56%→51%)、「学校のHPをよく見る」(22%→24%→21%) の 3 項目である。

【保護者】

①学校全体についての意識： 78% (76%, 76%)	②授業・評価に関して： 68% (66%, 69%)
③生活指導に関して： 84% (81%, 82%)	④進路指導に関して： 84% (84%, 81%)
⑤保護者連携、参加・相談： 71% (70%, 70%)	⑥人権教育、学習について： 76% (86%, 87%)
⑦学校行事、部活動： 91% (87%, 89%)	⑧施設・設備に関して： 77% (77%, 80%)
⑨学校からの情報提供関連： 70% (70%, 69%)	⑩学校教育への参画関連： 77% (75%, 77%)

※保護者について、今年度は生徒と同様に⑥「人権教育、学習について」が減少している。

今回、未回答率が 1.5 ポイント増加したものの、1 クラス減となった今年度の回答者数は 398 名 (H27 : 291 名)、回収率は 46% (H27 : 32%) と増加した。肯定率は 25 項目中 16 項目が上昇している。

項目別にみると、「子供は学校に友達がいると知っている」(94%→95%→96%)、「学校行事は、積極的に参加できるよう工夫されている」(92%→90%→94%)、「保護者に出す連絡や案内文書は適切である」(88%→88%→88%)、「この学校の部活動は活発である」(87%→83%→87%)、「地震・台風への対応が子どもや保護者に知らされている」(89%→88%→87%)、「先生は子どものまちがった行動を厳しく指導してくれる」(83%→84%→87%) は高い評価を得ている。

また、50%を下回る項目は一つで、「学校のホームページをよく見る」(31%→33%→25%) は、昨年度よりも 8 ポイント下がっている。その他、昨年度より 5 ポイント以上数値が下がったものは、「学校は子どもに関する個人情報を守られている」(94%→96%→60%) で、37 ポイント減少した。

5 ポイント以上上昇した項目は「教育方針をわかりやすく伝えている」(63%→60%→67%)、「子どもの心身の健康について、気軽に先生に相談できる」(73%→68%→77%)、「子どもに生命を大切にする心や社会ルールを守る態度を育てようとしている」(83%→82%→87%)、「PTA 活動については活発である」(74%→72%→77%)、「家庭への連絡や意思疎通を積極的に行っている」(71%→72%→77%) である。

【教職員】

①教育計画・学校全体：	57% (49, 64%)	②授業・評価に関して：	65% (65, 66%)
③生活指導に関して：	63% (47, 63%)	④進路指導に関して：	65% (53, 68%)
⑤相談・支援体制：	55% (60, 60%)	⑥人権教育、学習について：	65% (56, 74%)
⑦学校行事等特別活動：	74% (67, 80%)	⑧施設・設備に関して：	46% (46, 63%)
⑨地域・保護者連携：	71% (68, 67%)	⑩学校組織に関するもの：	55% (48, 64%)
⑪教育活動改善に関して：	73% (59, 72%)	⑫保護者への情報提供等：	78% (68, 71%)

※カテゴリー別の結果について、今年度は⑤「相談・支援体制」が減少しているほか、ほとんどの項目で上昇（伸び幅：3～14ポイント）している。

38項目中26項目が上昇、11項目が低下。全項目の平均は6ポイント上昇した（55%→61%）。

教育活動に関して、昨年度から特に上昇（10ポイント以上）した項目は「他の学校にない特色がある」（59%→31%→45%）、「体系的なキャリア教育を行っている」（60%→49%→63%）、「清掃がいきとどいている」（42%→37%→53%）、「学校行事の工夫・改善を行っている」（79%→66%→84%）、「生徒に社会規範や市民道徳を守る意識が育まれる機会をつくるよう配慮している」（64%→49%→74%）、「人権尊重に関する課題や指導方法について全教職員で話し合っている」（58%→34%→53%）である。

一方、大きく下がった（10ポイント以上）項目は「ICT機器を授業等で活用している」（52%→63%→53%）、「図書館が生徒に活用されている」（77%→69%→58%）である。

学校経営に関して、昨年度から特に上昇（10ポイント以上）したのは、「教育活動について、教職員で日常的に話し合っている」（70%→46%→66%）、「校長は学校運営等の考え方を明らかにしている」（61%→54%→87%）、「教職員が意欲的に取り組める環境にある」（48%→29%→61%）、「気軽に相談し合えるような職場の人間関係ができていく」（70%→54%→76%）である。

一方、大きく下がった（10ポイント以上）項目は「生徒の個人情報に関する管理システムが確立されている」（85%→69%→34%）である。加えて、「各分掌や各学年間の円滑・有機的な連携」は34%（56%→40%→34%）で、他の項目と比べても低い数値結果となっている。

◎課題

・【生徒】「学校に行くのが楽しい」の肯定率が減少していることから、その要因を明らかにする必要がある。そのためにも、今後より一層きめ細やかに生徒状況を把握することが重要である。

あわせて、カテゴリー⑤「教育相談、支援」について、23%の生徒が肯定的でないことから、生徒状況をもとに、学年・分掌・委員会間での連携強化等、教育相談体制の充実を図ることが課題である。

・授業改善は継続的な重要課題である。ICT機器や図書館の活用を図りつつ改善を図る必要がある。

また、【教員】の肯定度が高い「見学・参考できる機会がある」（87%→89%→92%）を生かすためにも、見学しやすい条件整備や見学後の検討が充実したものになるような工夫が必要である。

・「各分掌や各学年間の円滑・有機的な連携」について、今年度は新たな企画調整会議を定期的に行うなど、情報共有の徹底化に取り組んだ。各学年の生徒状況の把握、問題の対応に一定の効果は認められるものの、より円滑・有機的な連携が実現できるよう分掌等の組織体制の改善が重要課題である。

・「個人情報の管理」については、教職員の意識向上、指摘し合える関係づくりや管理ルールの徹底を図る必要がある。教職員の意識を高められるような自主研修や管理システムの改善を行う。

・校種間、地域連携の取組みについて、その目的や意義等を生徒・保護者に理解を図る必要がある。

・本校の特色を外部や保護者に理解してもらうためにも、学校ホームページや紹介ビデオ等の充実を図る必要がある。